

在郷町エリアの取組

(目次)

(1) 取組の背景と目的

- ①取組の背景
- ②取組の目的

(2) 令和3年度の取組内容

- ①小学校との連携
- ②大学との連携
- ③町家所有者等へのヒアリング
- ④地域資源の記録・整理

(3) 今後の取組の方向性

- ①取組の方向性及びスケジュール《当初想定》
- ②今後の取組の方向性検討
- ③取組の方向性及びスケジュール《再検討後》

(目次)

(1) 取組の背景と目的

- ①取組の背景
- ②取組の目的

(2) 令和3年度の取組内容

- ①小学校との連携
- ②大学との連携
- ③町家所有者等へのヒアリング
- ④地域資源の記録・整理

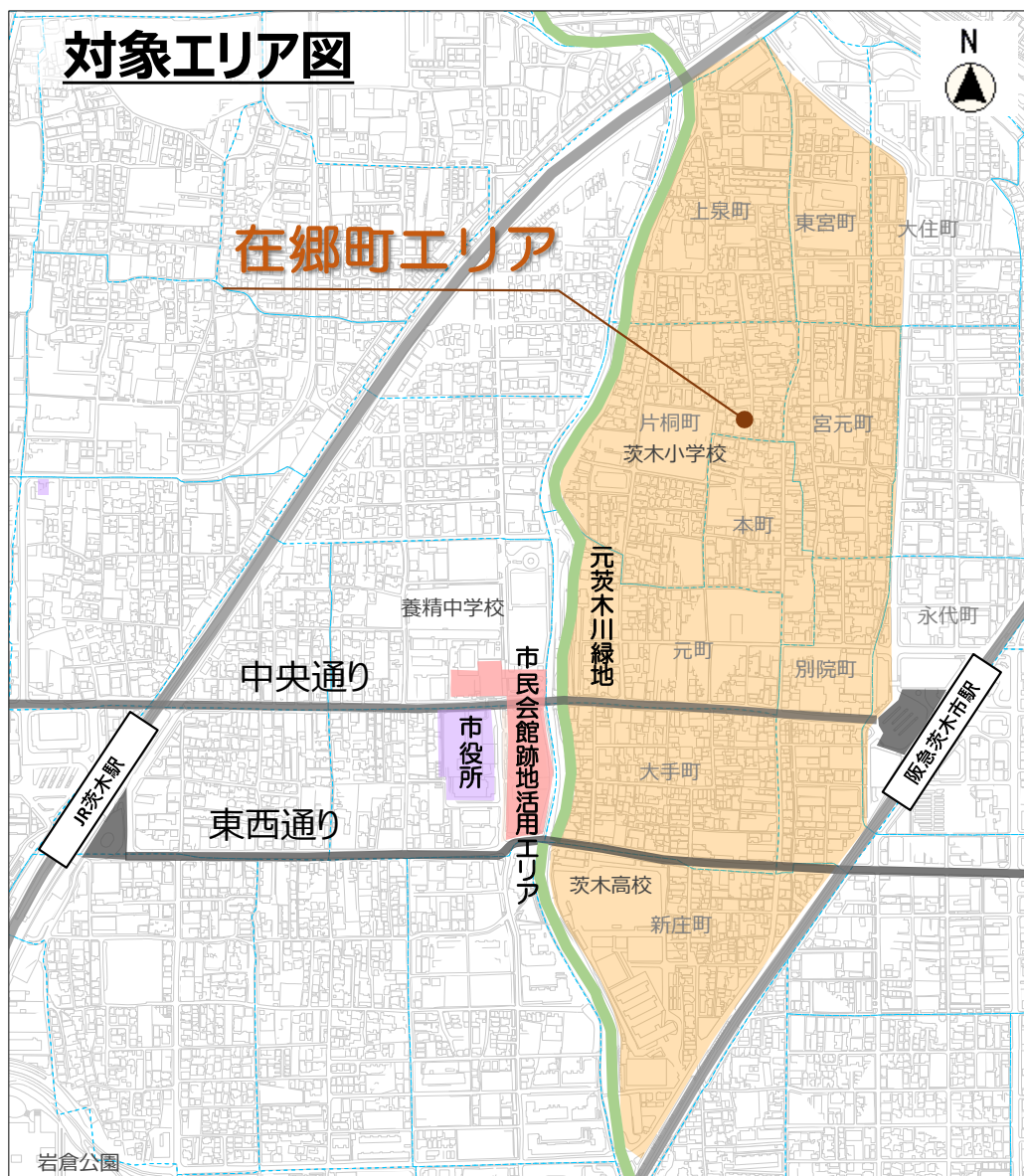
(3) 今後の取組の方向性

- ①取組の方向性及びスケジュール《当初想定》
- ②今後の取組の方向性検討
- ③取組の方向性及びスケジュール《再検討後》

①取組の背景

- ・茨木城廃城後、在郷町として発展した中心市街地には、歴史・文化的価値のある町家等が多く残されているが、保全及び活用がされておらず、その数が減りつつある。
- ・景観計画では、景観形成地区などの位置づけは無く、エリアとしてのあり方を検討する必要がある。

●歴史・文化的にも価値がある町家



●災害等により損失・滅失した町家



②取組の目的 (当初)

在郷町エリアの主要資源である町家に着目した取組を軸に据え、ガイドライン等による景観まちづくりを推進し、エリアの価値向上を図る。

●町家活用・保全の取組継続によるエリアの価値向上

保全・修景

事例1



中心市街地や市としての
風格や価値の向上

活用

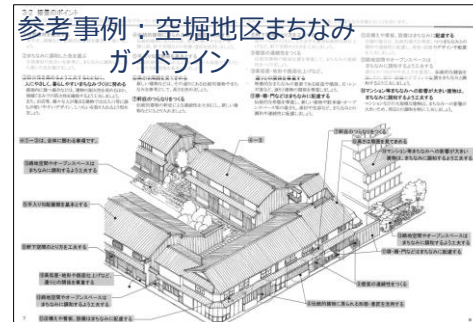


-
-
-

まちづくりガイドラインの策定

■ガイドラインに記載を検討する項目

- ・エリアの将来像
- ・公共空間のデザイン
 - 路面、照明灯、サインなどのデザイン
- ・町家やその他の建築物のデザイン基準
- ・民間オープンスペースのデザイン
- ・町家等の利活用の方針
- ・利活用の仕組みや支援策
- ・まちなみ形成や保全に向けた地域のルール など



景観計画への反映

■景観計画に記載を検討する項目

- ・町家等の建築物・オープンスペースのデザイン基準
 - 景観形成地区及び景観形成基準として反映
- ・ガイドラインの位置づけについても検討予定

②取組の目的（方向性の再検討 ※令和3年7月 第1回景観審議会）

令和2年度の町家調査結果を踏まえ、当初想定していた取組をそのまま進めることは困難と判断
⇒ 令和3年度は、さまざまな取組を展開しながら、今後の取組の方向性を模索する。

令和2年度 調査結果

- ・現存する町家は住まい手や利用者がいる
- ・町並み景観を牽引する町家は限定的である
- ・群としてまとまりはなく、旧街道沿いに**点在**している



調査結果を 踏まえた認識

- ・当初想定していた取組をそのまま進めることは困難
（ワークショップ実施、まちづくりガイドライン作成、景観計画への反映等）
- ・公費による支援スキームを組みにくい



令和3年度 取組内容

- ・小学校や大学と連携し、地域への愛着の醸成
- ・町家所有者等へのヒアリングや歴史・文化的要素の整理
の2軸から取組を進め、今後の方向性を模索

(目次)

(1) 取組の背景と目的

- ①取組の背景
- ②取組の目的

(2) 令和3年度 of 取組内容

- ①小学校との連携
- ②大学との連携
- ③町家所有者等へのヒアリング
- ④地域資源の記録・整理

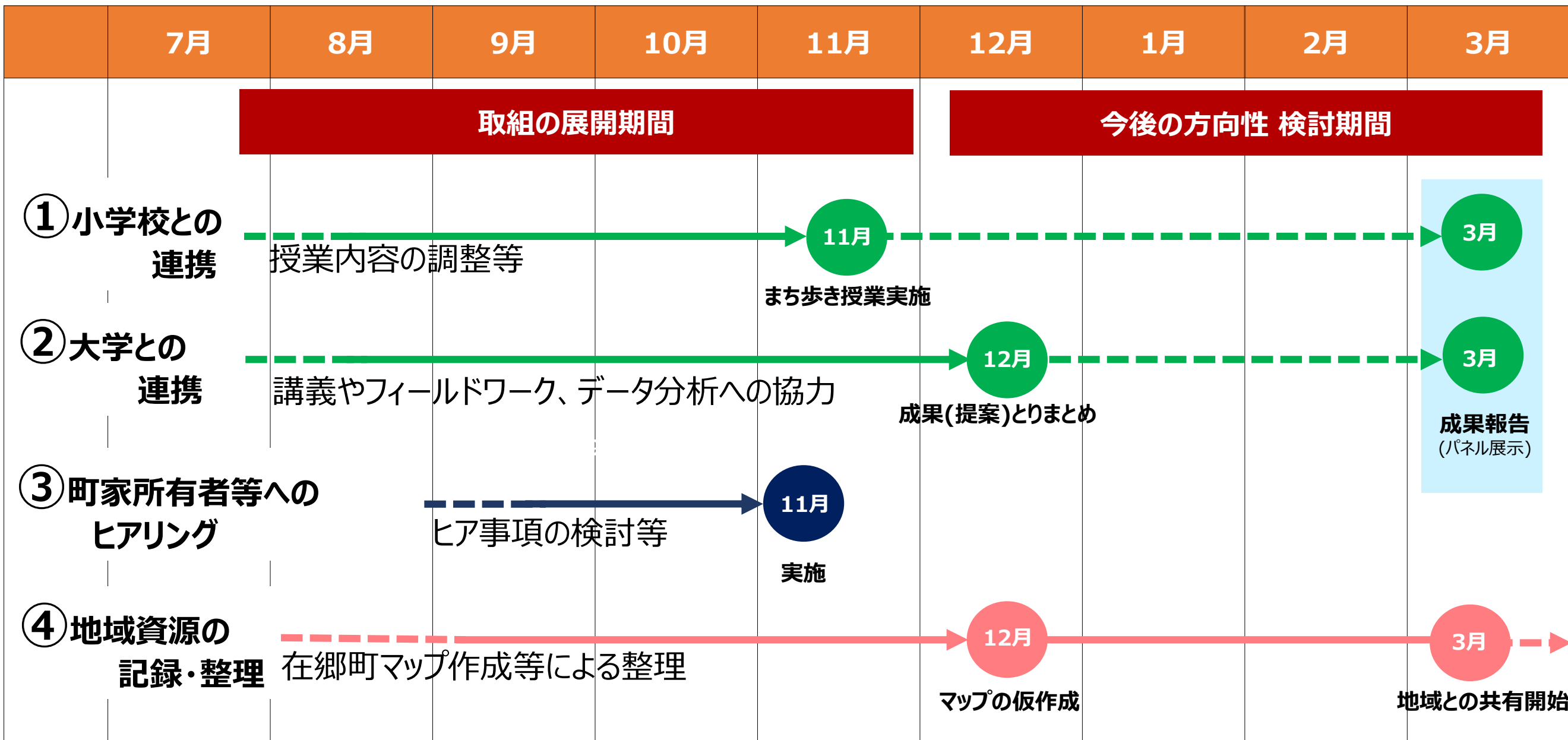
(3) 今後の取組の方向性

- ①取組の方向性及びスケジュール《当初想定》
- ②今後の取組の方向性検討
- ③取組の方向性及びスケジュール《再検討後》

令和3年度の取組内容

小学校や大学との連携のもと、歴史・文化的背景を有する地域の魅力や資源等を再認識する取組を進めつつ、在郷町エリアの主要資源である町家の所有者への個別ヒアリングの結果などを踏まえ、**今後の取組の方向性を検討**する。

<実施スケジュール>



①小学校との連携

地元小学校において、地域内の「**まちのおたから（歴史を感じて、魅力的なもの）**」を**発見するまち歩き**授業を実施することで、小学生の目を通して地域の資源や魅力を再認識するとともに、発表の機会を設け、実施成果を地域内外で共有する。

<実施概要>

項目	内容
連携対象	茨木小学校（5年生 4クラス）
方法	総合学習の時間を活用し、まち歩き授業を実施する。
スケジュール	<p>7～10月：授業内容等の調整 11月：授業実施（11月25日（木）、26日（金））</p> <p>・授業概要（詳細は次頁授業プログラム参照）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. まちの構成要素（建物、道路、植栽など）とその見方をレクチャー 2. まち歩きを行い、「まちのおたから」を発見 3. グループで意見交換、発表
成果活用	<p>まち歩き授業及びその後の調べ学習の成果を、市役所1階にてパネル展示 （パネル展示期間（予定）：令和4年3月中下旬の1週間を想定） ※コロナ禍を踏まえ、対面を要しないパネル展示として実施</p>
協力	大阪大学大学院工学研究科 都市環境デザイン学領域

<実施の様子 (プログラム)>

まちのおたから発見!

今日は、みんなでまちを歩いて
まちの『古きよきもの』を見つけます。
その後、『まちのおたからマップ』をつくります。



プログラムの流れ

- 10:50 ~ ①はじまりのあいさつ
自己紹介・プログラム説明
- ②専門家のおはなし
- 11:00 ~ ③まちあるき
くつにはき替え、正門に集合!
『古きよきもの』を見つけるまちあるきへ
- 11:35 ~ ④トイレ休憩
- 11:40 ~ ⑤グループワーク
まちあるきをふりかえろう
探してきた『古きよきもの』から、
まちのおたからマップを作成しよう!
- 12:20 ~ ⑦おわりのあいさつ

5年 組 番 1班 名前

まちあるきについて



班で、右図のまちあるきルート歩き、
普段生活しているまちにひそむ『古きよきもの』を探そう!

まちあるきでのミッション

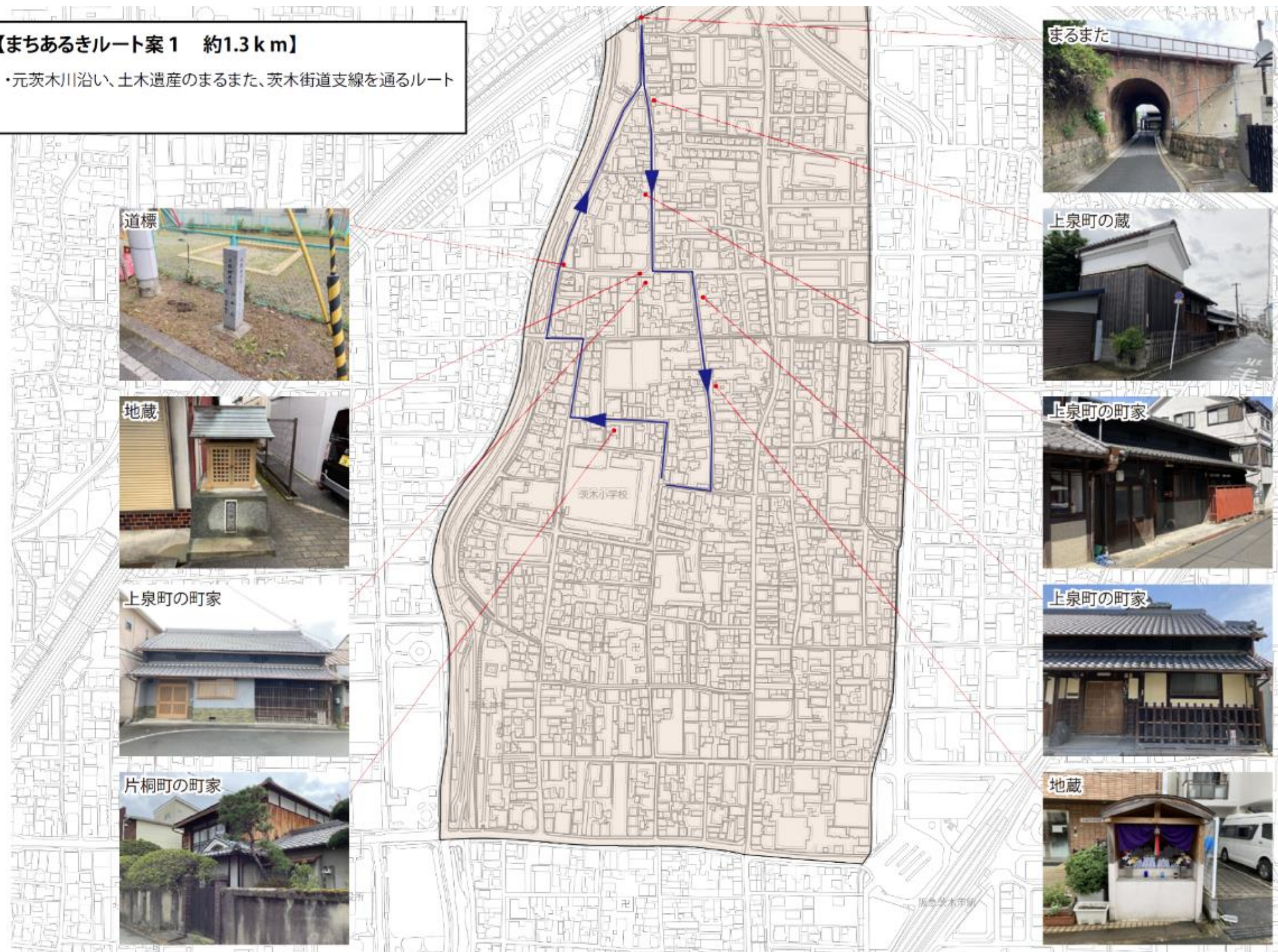
- ①『古きよきもの』を見つけること。
- ②見つけた『古きよきもの』をスタッフに伝え、
写真を撮ってもらうこと。
- ③撮った写真の場所を右の図に●印でチェックすること。

「まち」は何からできている?



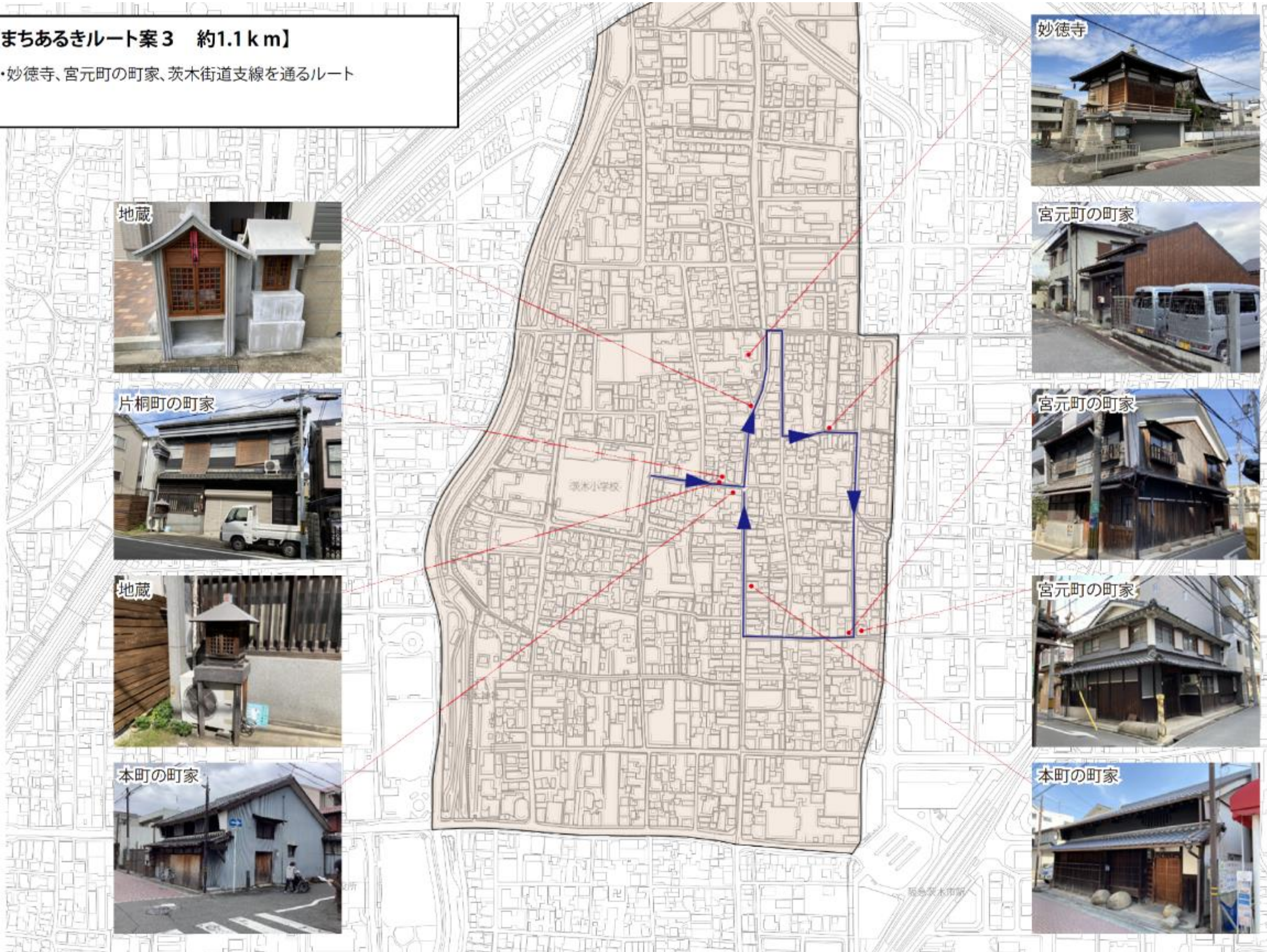
<実施の様子 (まち歩きルート例) > ※全6ルート設定

【まちあるきルート案1 約1.3km】
・元茨木川沿い、土木遺産のまるまた、茨木街道支線を通るルート



<実施の様子 (まち歩きルート例) > ※全6ルート設定

【まちあるきルート案3 約1.1km】
・妙徳寺、宮元町の町家、茨木街道支線を通るルート



<実施の様子 (まち歩き)>



<実施の様子 (グループワーク)>



<実施イメージ (パネル展示)>



地元小学生が見つけた 在郷町エリアの歴史・文化的資源

～茨木小学校 総合学習まちあるき授業～

開催主旨

本市では、多くの人に、茨木市のまちなかを訪れていただきたいという思いから、歴史・文化的資源を多く残す在郷町エリア（旧茨木城下町周辺）の魅力を再発見し、市内外への情報発信や歴史・文化的な資源を活かしたまちづくりを検討しています。
その試みとして、茨木小学校と連携し、茨木小学校付近（在郷町エリア）のまちあるきを行い、児童が発見した歴史的・文化的な魅力をまとめました。

開催概要

- ・実施日時：11月25（木）、26日（金） 午前
- ・実施対象：茨木市立茨木小学校 5年生4クラス
- ・授業：総合的な学習の時間 2コマ（90分）
- ・主催：茨木市都市政策課
- ・連携：茨木市立茨木小学校
- ・運営：株式会社地域計画建築研究所
- ・協力：大阪大学大学院工学研究科 都市環境デザイン学領域

授業内容

1 オリエンテーション・専門家のお話

茨木に詳しい専門家からまちを構成しているものやまちあるきのポイントについて、お話を聞きました。



プログラム名：まちのおたから発見！

まちあるきを行い、発見したまちの魅力を「古きよきもの」として、整理しました！



2 まちあるき

毎年で校区内をまちあるきし、校区内にある魅力的なもの、「古きよきもの」を探しました。



3 グループワーク

まちあるきを振り返りました。魅力的なものの写真を選び、感じたことや想いととも、マップに整理しました。



4 講評・まとめ

出前授業のとりまとめとして、室町時代からの在郷町の歴史とまちあるきを紐づけました。



在郷町エリアのいろいろな魅力を発見しました！

成果のまとめ

小学生が発見した
まちのおたから

町家	<u>町家（建物全体）</u> 、ポスト、牛乳箱、窓、煙突、門、雨戸…
施設	<u>寺</u> 、 <u>神社</u> 、蔵、茨木小学校（櫓門）、丸また…
樹木	建物と一体化した古い樹木…
その他	地蔵、 <u>道標</u> 、商店街のアーケード

※多くの小学生が挙げた資源を下線表記しています。

授業効果・
子どもの学び

- ・普段何気なく歩いている校区内に、歴史があって魅力的なものがたくさんあることを学べた。
- ・授業後にも、お互いが発見したものについて話し合う姿が見られた。
- ・市職員や大学生など、教員以外の大人と一緒に学習する非常に貴重な経験となった。

※出前授業後、教員に授業効果等について聞き取り

その他
(課題等)

学校（小学生）との関わりは生まれたが、コロナ禍ということもあり、地域との連携を深めるには至っていない。

→次年度は、より多様な主体との関わりを生み出せるよう留意

②大学との連携

在郷町エリアの「らしさ」を守るための取組提案を検討される大学に対し、データ提供や分析等の協力を行い、その成果を提案としていただくことで、客観的なデータ分析を通じて、地域の資源や魅力等を再認識する。

<実施概要>

項目	内容
連携対象	大阪大学大学院工学研究科 都市環境デザイン学領域
方法	在郷町エリアにおいて「らしさ」を守るための取組提案を検討される大学に対し、データ提供や分析等の協力を行う。
スケジュール	<p>7～11月 : データ分析への協力等 12月 : 取組提案のとりまとめ・発表(※)</p> <p>(※)日本建築学会近畿支部主催「アーバンデザイン甲子園」にて作品発表 作品名：守りつくして破るとも離るとても本を忘るな 結果：入選</p>
成果活用	<p>成果（取組提案）を、市役所1階にてパネル展示 (パネル展示期間(予定)：令和4年3月中下旬の1週間を想定) ※コロナ禍を踏まえ、対面を要しないパネル展示として実施</p>
備考	大阪大学学部生の講義やフィールドワークへの協力も実施 (令和3年5月)

<取組提案の概要①>

在郷町エリアの現状分析 1

データ分析
町家調査
建築確認申請

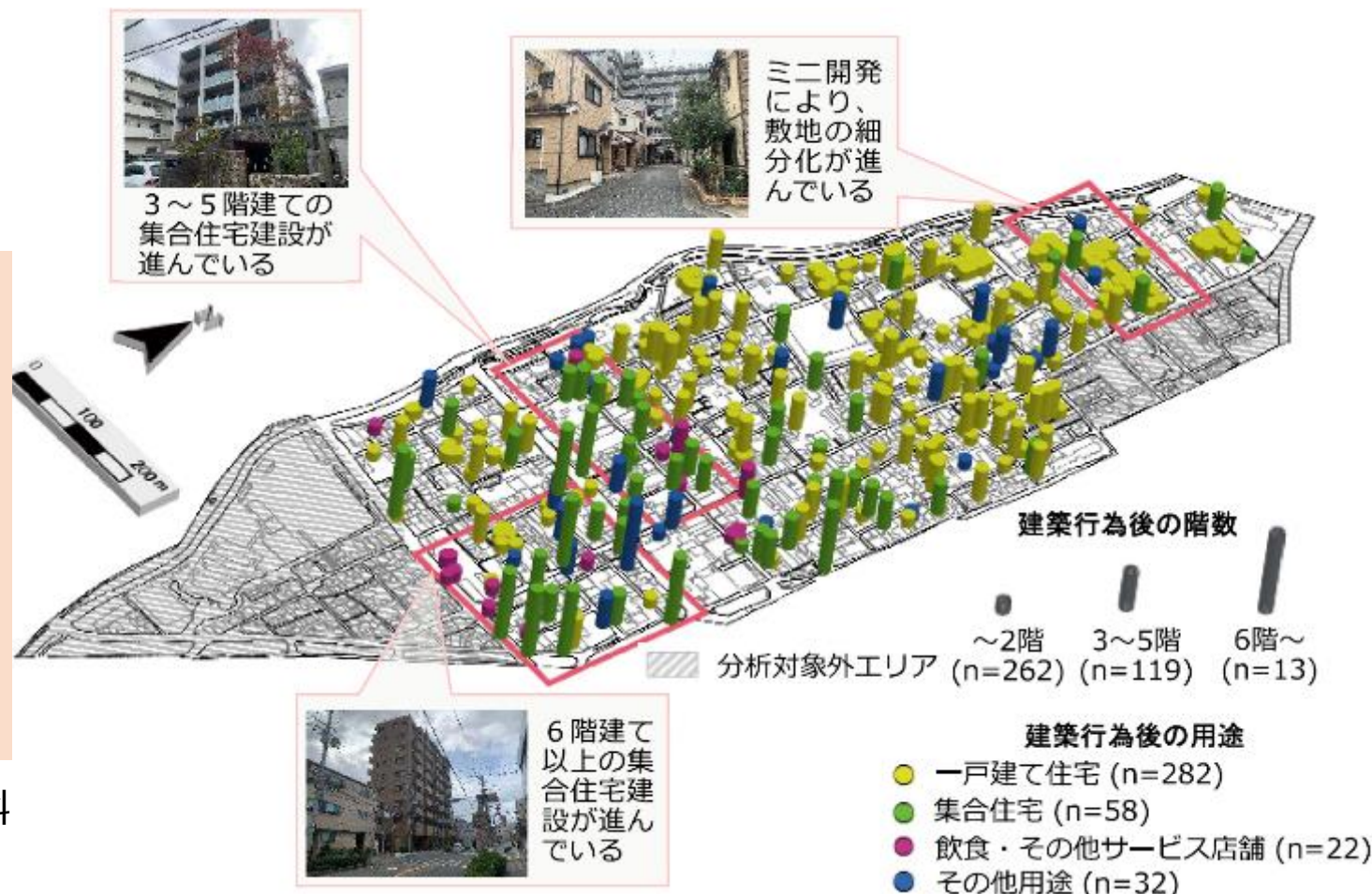
在郷町エリアに生じている課題

1. 町家の滅失
2. ミニ開発による敷地の細分化
3. 集合住宅開発による高層化



町家の滅失は、新たな開発という
経済的理由とセットになって発生

スライド作成：大阪大学大学院工学研究科
(都市環境デザイン学領域)



在郷町エリアの現状分析 2

「らしさ」の整理

パターンランゲージの手法による、
エリアの環境特性の読み解き

スライド作成：大阪大学大学院工学研究科
(都市環境デザイン学領域)



<取組提案の概要②>

「らしさ」を守るための取組提案

在郷まち公社 によって包括的に推進

景観を守る
新規開発のコントロール

守

手法
狙い

ガイドラインと景観に係る届出制度
パターンの維持と
在郷町らしさを知るきっかけづくり

既成制度を破った
町家保全

破

手法
狙い

小規模容積移転
町家保全による
パターンを生み出す場の確保

型を離れた
暮らし方の実現

離

手法
狙い

町家所有者以外による
町家活用の支援
在郷町らしい町家活用による
パターン表出の場の増進

スライド作成：大阪大学大学院工学研究科
(都市環境デザイン学領域)

成果のまとめ

※提案手法の概要及び提案を踏まえた市の認識等

手法①
ゾーン別ガイドライン
と開発届出制度

概要

在郷町エリア独自のルール（ゾーン別ガイドライン）を設け、まち公社や地元協議会、自治体との事前協議により景観をコントロール

認識

持続可能な制度とするには、まずは**地域における景観まちづくりへの機運の高まり**が必要

手法②
小規模容積移転

概要

従来の大規模容積移転ではなく、住居系地域における容積移転制度を導入

認識

担い手となる**中間組織の立ち上げ**や、**地域特性を踏まえた容積移転のあり方の検討**が必要

手法③
まち公社のサブリース
による町家活用

概要

町家を在郷まち公社が一括で借り上げ、町家活用をコンサルティング

認識

市のまちづくり会社による取組可能性のある手法と認識
※**所有者等の意向**は十分踏まえる必要がある。

③町家所有者等へのヒアリング調査

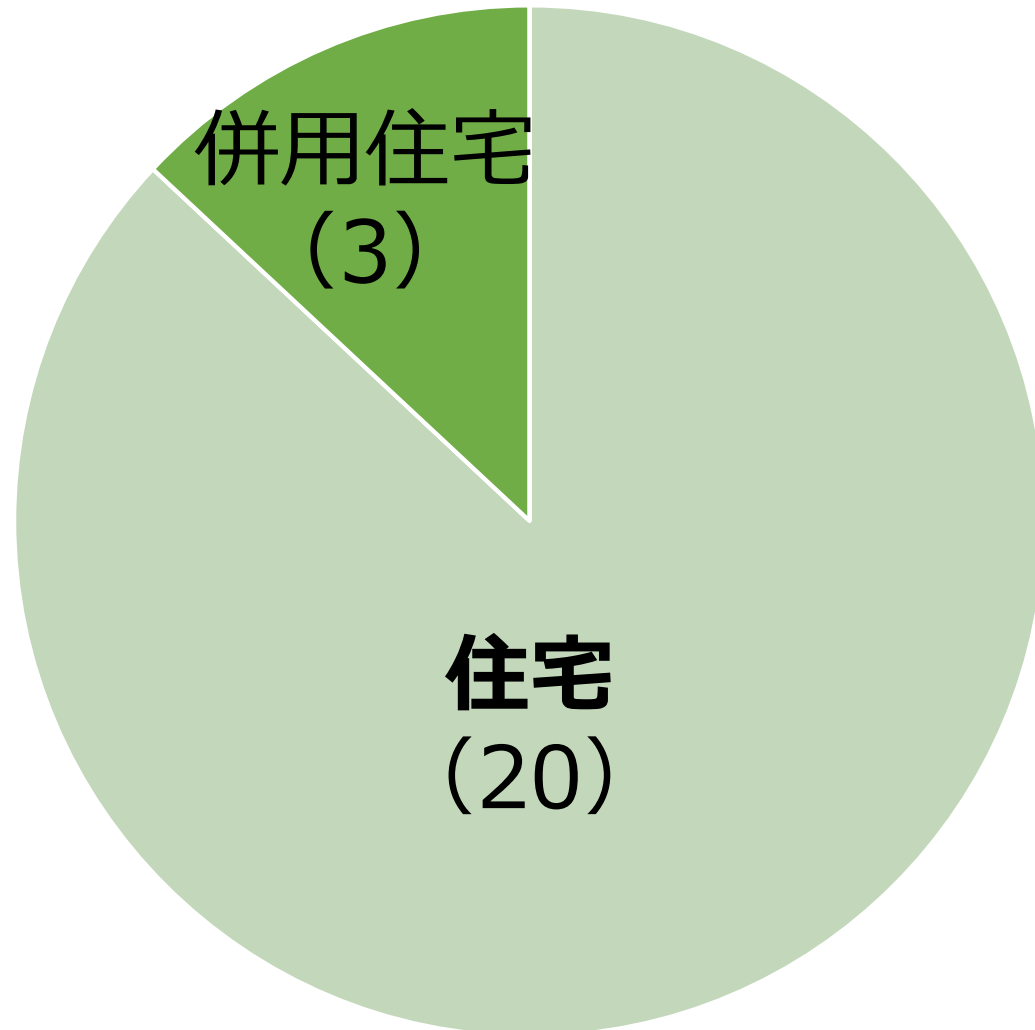
在郷町エリアにおける景観まちづくりの可能性を検討する基礎資料とするため、エリアの主要な歴史・文化的資源である「町家」を対象に、現在の利用用途や将来的な活用のご意向等に関するヒアリング調査を行う。

<実施概要>

項目	内容
対象	対象件数：39件（エリアにおける町並み景観を牽引する区分A+～Bの町家） 実施件数：30件（ヒアリング実施23件＋空き家等7件） ※39件－30件＝9件は回答拒否等
方法	戸別訪問し、ヒアリング調査を実施する。
スケジュール	7～10月：ヒアリング項目の検討 11月：協力依頼文書を事前投函→実施（11月10日（水）以降、随時）
備考	ヒアリング項目 <ul style="list-style-type: none"> ・現在の利用用途（住宅、店舗、併用住宅、その他） ・建築年代 ・町家の歴史（商売履歴など） ・住む/利用する/所有するうえでの困りごと ・今後のご予定 ・社会実験などの取組への興味・関心 など

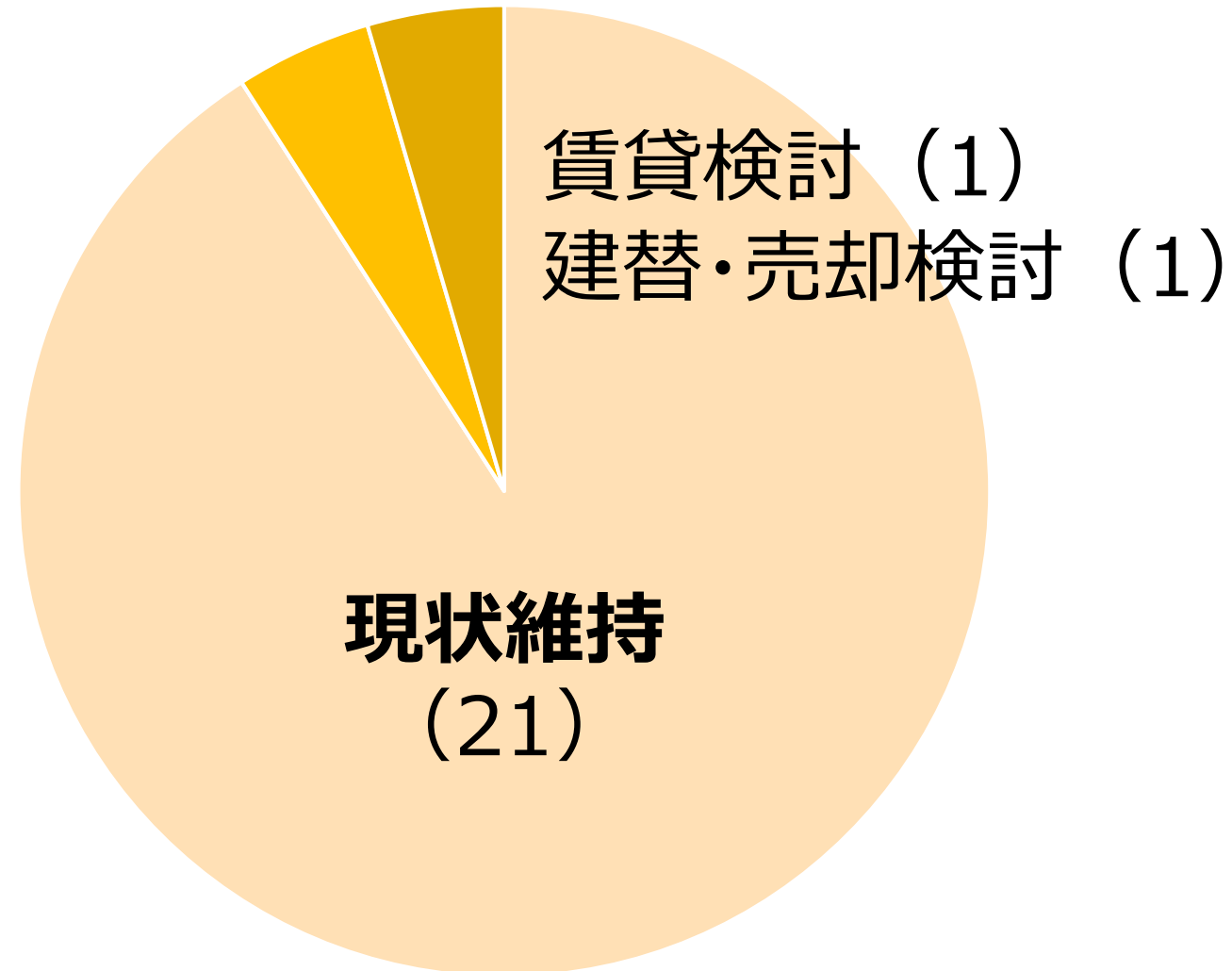
<主なヒアリング項目-回答>

町家の現在の利用用途



住宅利用がほとんどである。
※店舗単体の利用はなし

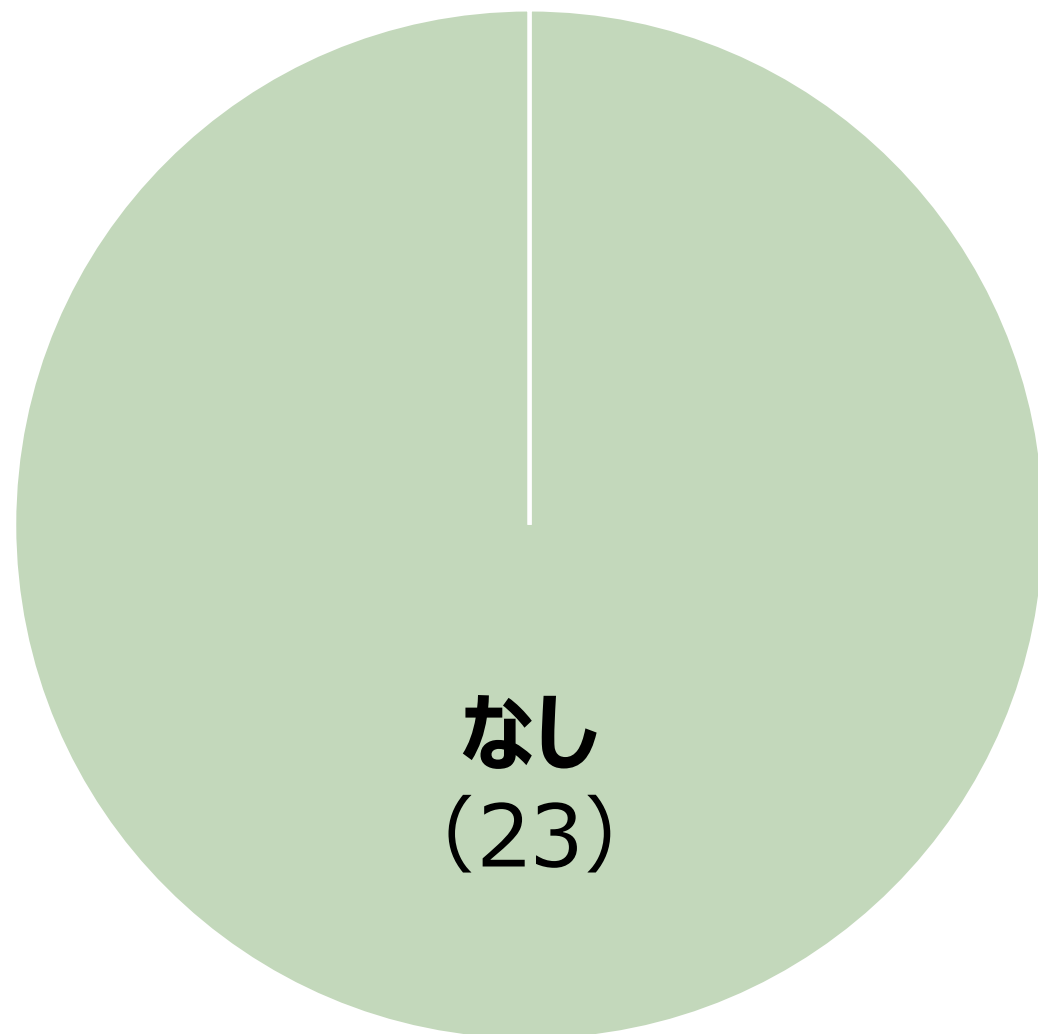
今後のご予定



現状のまま（住宅として）利用される意向が多く、建替え等を検討されている方は少ない。

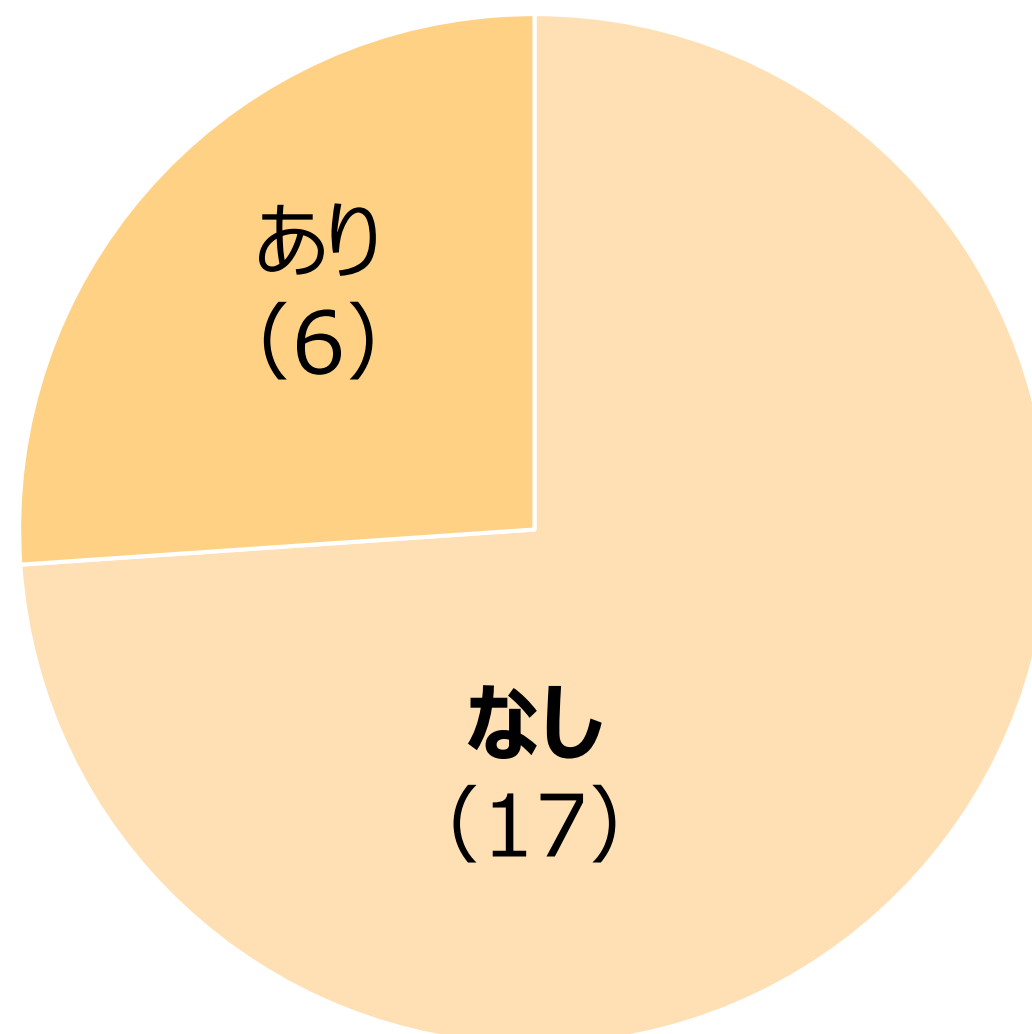
<主なヒアリング項目-回答>

町家の活用（社会実験）への関心



自らが主体となって、町家を活用されるご意向はなかった。

市主催イベントへの協力意向



市が短期イベントを主催する場合に、協力いただけるご意向の方は、少数ながらおられた。

成果のまとめ

※ヒアリング結果概要

町家の用途
(現在・将来)

現在 ほとんどが**住宅（自宅）**として利用されている。

将来 現在のまま、住宅として利用される意向が多い。
(建替え等を検討されている方は少ない。)

町家の利活用
ご意向

ほとんどが住宅であることなどから、景観まちづくりの推進のために、**自らが主体**となって、**町家を活用されるご意向はなかった。**

※活用には、店舗などの商業的活用と、「オープン町家」などの公共的活用の両方を含む

その他

・短期間の市主催イベントへの「協力」であれば、前向きに検討いただけるご意向をお持ちの方は一部おられた。

・これまでに、何らかの活用取組をされてきた町家であっても、相続時には、それが必ずしも「町家を残す」判断材料にはなっていないようである。

・非常に利便性が高いエリアであり、日々の生活にあたっての課題等が顕在化しているとまではいえない印象である。

④地域資源の記録・整理

令和2～3年度 of 取組で把握・再認識された地域資源について、マップ形式で記録・整理し、今後、地域内外で共有するコミュニケーションツールとする。

<実施概要>

項目	内容
対象	<p>在郷町エリア（旧茨木城下町エリア）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在郷町エリア 概ね北はJR京都線、南は阪急京都線、西は元茨木川緑地、東は高瀬川に囲まれたエリアで、茨木城の廃城以降、在郷町として発展
方法	<p>エリア内の地域資源等をマップ形式で取りまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップに掲載した地域資源等の例 <ol style="list-style-type: none"> 1.町家（町家所有者等ヒアリングにて、掲載可否をヒアリング） 2.寺社、地蔵、道標、門、旧街道、水路、旧町名 3.茨木小学校まち歩き授業で発見された「古きよきもの」
スケジュール	<p>～12月：在郷町マップの仮作成 3月以降：情報発信・共有、随時更新</p>
成果活用	<p>令和4年3月のパネル展示において、地域との共有を開始 ⇒ それ以降、地域とのコミュニケーションを深めながら随時更新</p>

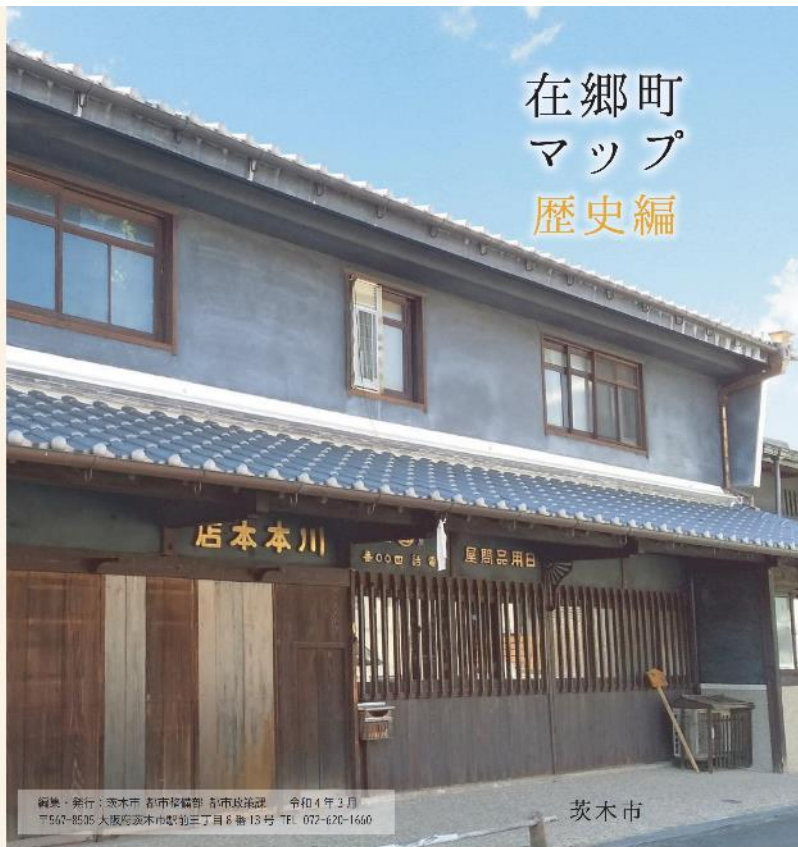
成果のまとめ

※別紙6参照

在郷町とは

在郷町(ざいこうまち)とは、一般に、農村部で発達した商工業集落をさします。茨木市には、概ね北はJR京都市線、南は阪急京都線、西は元茨木川緑地、東は高瀬川に囲まれた場所に在郷町があります。
安土桃山時代、茨木村には茨木城を核とする城下町が存在しましたが、江戸時代初期の一国一城令により廃城となつてからは、城下町一帯は在郷町となり、酒造業や人力搾油業などが行われていました。
現在は、駅が近く、大変便利なエリアとなっていますが、町なかには古くからのまちの遺跡が所々に残っており、大変貴重で、魅力がたくさん詰まっている場所です。

在郷町の範囲



在郷町マップ 歴史編

編集・発行：茨木市 都市情報部 都市政策課 令和4年3月
〒567-8505 大阪府茨木市御船三丁目6番13号 TEL: 072-620-1660

茨木市

在郷町の歴史を今に伝える要素

街道

在郷町には、4つの街道が通っています。街道沿いには、昔の街を感じさせる「平入町家」の家並みが今でも少し残っているところがあります。



町割

在郷町には、城下町特有の複雑に入り組んだ町割が残っています。そして、昔の町名を進んでみると、どのような街だったかを想像することができます。

水路

在郷町の中には水路が通っており、町なかを流れていると、水路の遺跡を見ることができます。



寺社仏閣

守保年節の絵図には、6つの寺社仏閣が描かれています。最も歴史があるのは、旧茨木川跡地沿線の茨木神社です。その他、国登録有形文化財に登録されている茨木別院や、妙法寺、浄教寺、梅林寺、本源寺があります。



町家

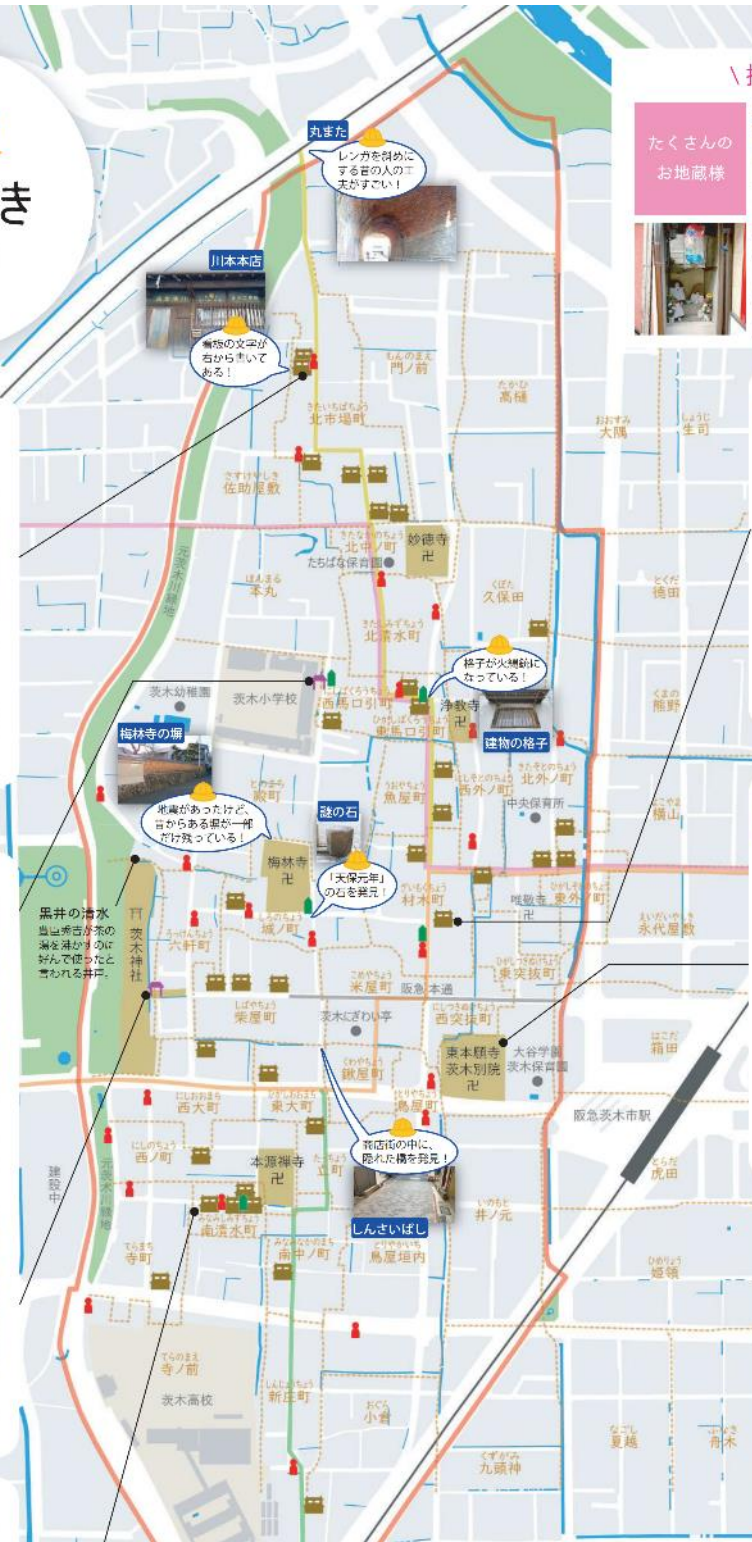
在郷町に現存する町家は、大きく4つに分類されます。「中2階町家型」「本2階町家型」の町家は、当初は茨木関先ミセ(商売をするための空間)が設けられていたと考えられ、旧街道に面して立地しているのが特徴です。「屋敷型」「長屋型」の町家は、町和戦前期を中心に専ら住宅として建築され、旧街道から外れた場所に立地しているのが特徴です。



その他

在郷町の中には、各所にお祭りされている化紅地蔵様、貝の道しるべである道標、明治初期に建築された丸またと呼ばれるレンガ造りの橋など、歴史の面影がまだまだたくさんあります。

歴史まち歩きMAP



国登録有形文化財 川川家住宅



江戸時代は藍染屋を営んでいた町家。二階内部は、玄関先にミセ(商売をするための空間)があり、外南北向きに建ち並ぶ。通り上には、数代前の倉庫にのびるトロッコレールを築いている。2014年には、近世以来商工業の拠点として築いた茨木の面影を伝える町家として、国の登録有形文化財に登録された。

茨木城櫓門 旧茨木城搦手門



▲茨木城櫓門
現在の茨木小学校の位置に茨木城の二の丸があったとされることから、茨木小学校創立120周年を記念して櫓門を復元した。



▲旧茨木城搦手門
現在の茨木神社東門は、茨木城の搦手門が移築されたものと考えられている。

風情ある町並み



町家が連続して残り、古き良き町並みを再現できるスポット。

※まち歩きの際は、私有地内には立ち入らず、プライバシーに配慮してください。また、住宅地内での大声での会話は控えましょう。※ごみは持ち帰り、美観の維持にご協力をお願いします。

探してみよう!



さわらぎや家具店



明治時代より家具屋を営んでいる町家。扉は濃茶色。通り沿いの軒下にはミセ(商売をするための空間)があり、背面北向きには当時のままの床を残している。

国登録有形文化財 茨木別院



茨木別院は真宗大谷派(東本願寺)の別院として寛永8(1633)年に創建された寺で、400年以上の歴史を誇る。現在の本堂は、安永6(1777)年頃に再建されたもの。2016年には、建物の優れた意匠や高い力量などが認められ、本堂・本堂縁・鐘楼が国の登録有形文化財に登録された。

凡例

- 地蔵
- 道標
- 町家
- 門
- 石灯籠(石灯籠) 町家
- 明治期初期の境界
- 在郷町境界
- 茨木街道
- 高瀬街道
- 茨木街道支線
- 枝切街道

このマークは、茨木小学校50周年が見つけた在郷町のお宝(古きよきもの)です。

探してみよう!



令和2～3年度取組成果の総括

今後の取組の方向性を検討するにあたり、令和2～3年度の取組成果を総括する。

<令和2年度>

町家現況調査

- ・震災等を契機に**町家の滅失**が進み、在郷町エリアに面的に存在しているとはいえない状況である。
- ・残存町家はほとんどが住宅として利用されている。

<令和3年度>

①小学校連携

地域の資源や魅力等について、地元小学生が学ぶ機会となるとともに、その成果を地域と共有した。

②大学連携

- ・**町家の滅失**は、新たな開発という**経済的理由とセット**になって発生している。
- ・事前協議制などの景観誘導には、**地域の機運の高まりが必要**である。

③町家ヒアリング

今後も引き続き住宅として利用される意向がほとんどであり、**自らが主体となって町家を活用されるご意向は確認できなかった。**

④資源の記録整理

在郷町マップを作成
→今後、地域の資源等を共有する**コミュニケーションツールとして随時更新**

(目次)

(1) 取組の背景と目的

- ①取組の背景
- ②取組の目的

(2) 令和3年度の取組内容

- ①小学校との連携
- ②大学との連携
- ③町家所有者等へのヒアリング
- ④地域資源の記録・整理

(3) 今後の取組の方向性

- ①取組の方向性及びスケジュール《当初想定》
- ②今後の取組の方向性検討
- ③取組の方向性及びスケジュール《再検討後》

①取組の方向性及びスケジュール 《当初想定》

方向性 当初	在郷町エリアの主要資源である町家に着目した取組を軸に据え、ガイドライン等による景観まちづくりを推進し、エリア価値の向上を図る。
-------------------	---

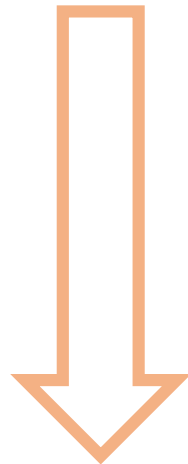
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
取組内容 スケジュール	現況調査・分析 町家の現況調査や文献調査等を実施	大学生、地元小学生 フィールドワーク 機運醸成のため、学生等の参画を得る。	町家活用策の検討 社会実験 将来像実現の第一歩として、町家の活用を検討し社会実験を実施する。	活用支援策と 仕組みの検討 町家活用などのキーパーソンと、管理・運営組織等を検討
	WS 事前準備 取組のキーパーソンになり得る人へのヒアリング等を実施	将来像の検討/共有 ワークショップ等により、地域住民やキーパーソンと将来像を検討する。	まちづくりガイドラインの検討 将来像にふさわしい、街並みを実現するためのルールや運用方策等を地域住民と検討	
		将来像 (素案)	将来像 (案)	まちづくりガイドラインの策定 景観計画への反映

②今後の取組の方向性検討

方向性 当初	在郷町エリアの主要資源である町家に着目した取組を軸に据え、ガイドライン等による景観まちづくりを推進し、エリア価値の向上を図る。
-------------------	---



上記方向性において想定される具体的な事業例	
町家の 保全	所有者等に対する維持管理費用の支援による町家の保全



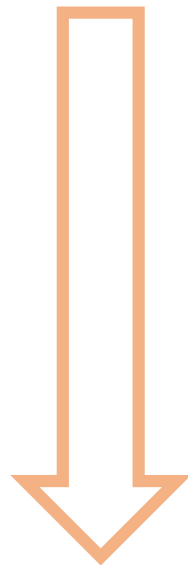
R2 町家現況調査	震災等を契機に 町家の滅失 が進み、エリアに面的に存在しているとは言えない状況である。 ※残存町家は ほとんどが住宅
---------------------	---

取組成果を踏まえた事業の展開可能性	
×	住宅利用の町家がほとんどであり、維持管理費用に対する支援は、 公平性等の面から困難 であると認識

方向性 当初	在郷町エリアの主要資源である町家に着目した取組を軸に据え、ガイドライン等による景観まちづくりを推進し、エリア価値の向上を図る。
-------------------	---



上記方向性において想定される具体的な事業の例	
町家の 活用	中心市街地の回遊性向上に資する取組として、町家の商業的活用、イベント的活用を進めるための各種公的支援



R3 大学連携	町家の滅失は、新たな開発という 経済的要因とセット になっている。
R3 町家所有者ヒア	引きつづき住宅として利用される意向 が多く、活用に対する興味・関心は薄い。

取組成果を踏まえた事業の展開可能性	
×	所有者の活用に対する関心が薄く、仮に市主催のイベント的な取組を実施しても、 持続的な展開につなげることは困難 と判断

これまでの取組成果を踏まえた検討により…

<p>方向性 当初</p>	<p>在郷町エリアの主要資源である町家に着目した取組を軸に据え、ガイドライン等による景観まちづくりを推進し、エリア価値の向上を図る。</p>
--------------------------	--

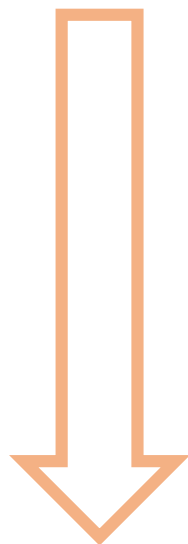
町家を中心とした取組から転換

<p>方向性 再検討後</p>	<p>ガイドライン等による景観まちづくりの推進を視野に、今後変わりゆく中心市街地において、 歴史・文化的資源を多く有する エリアの魅力地域と共有し、愛着醸成を図る。</p>
----------------------------	--

方向性 再検討後	歴史・文化的資源を多く有する エリアの魅力を地域と共有し、愛着醸成を図る。
---------------------	--



上記方向性において想定される具体的な事業の例	
愛着の 醸成	まちがより変化していく過渡期において、歴史・文化的資源を多く有するエリアの資源や魅力について、地域と共有・再認識する。



R3 小学校連携	今年度の関わりをベースとして、学校との連携を契機に 地域との関わりをより深めていく ことは可能
R3 在郷町マップ	地域の資源等を共有する コミュニケーションツールとして随時更新

取組成果を踏まえた事業の展開可能性	
○	学校や、他の取組（東西軸社会実験など）との連携等を軸に、 地域への愛着醸成を図る取組として展開 する。 →並行して、 <u>ガイドライン策定等による景観まちづくりを中長期的に検討</u>

③取組の方向性及びスケジュール 《再検討後》

方向性 再検討後	将来的な景観まちづくりの推進を視野に、今後変わりゆく中心市街地において、 歴史・文化的資源を多く有する エリアの魅力を地域と共有し、愛着醸成を図る。
---------------------	--

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度以降
取組内容 スケジュール	町家を「残す」ことを軸に据えた取組	将来的な景観まちづくりを視野に、愛着醸成			
	現況調査・分析 町家の現況調査や文献調査等を実施	①小学校連携 ②大学連携 子ども目線、データ分析を通じた地域魅力について、成果を地域内外で共有 ③町家ヒア ほとんどが引きつづき住宅として利用される意向 ④資源記録 これまでの成果をマップにとりまとめ	地域との継続的なやり取り 小学校や、東西軸の取組等との連携・コラボにより、歴史的・文化背景を有する地域の資源や魅力について、継続的に地域と共有・確認 在郷町マップ°の共有・随時更新 地域とのコミュニケーションツールとして、共有・随時更新	景観まちづくりへの意向確認 中長期的視野で検討	機運の高まりを受けて、具体的手法等を検討するフェーズに移行する…

方向性再検討

中長期的視野で検討